

○水質浄化と健全な生態系維持につながる水質保全対策の提案

「内部負荷による湖内水質変動の解析および生態系保全に向けた水質管理に関する政策課題研究」

(2008年－2010年)

コーディネーター: 早川 和秀

これまでの負荷削減努力にもかかわらず、琵琶湖の水質が改善しない理由の一つには、湖内での栄養塩類や有機物の蓄積があり、それらが内部負荷となっています。

そこで、琵琶湖およびその集水域での水質やプランクトンの長期データを収集・解析し、湖内の生態系構造に基づき、栄養塩や有機物の物質循環を把握することにより、内部負荷による水質変動を解析・説明します。

これらの知見により、内部負荷の削減につながる沿岸帯の底質改善および水質浄化や生態系維持につながる生物種の保全等の水質保全方策のあり方を提案します。

研究の概要

琵琶湖集水域で、栄養塩の負荷削減対策が行われながらも湖水での水質改善に現れてこないのは、湖内で栄養塩や有機物の蓄積があり、それらが内部負荷となっていることが原因と考えられます。

内部負荷の要因は様々ですが、その背景としては、特に、沿岸域の底質に栄養塩や有機物の多くが蓄積していること、魚類を含めた生態構造のバランスが乱れていることが挙げられます。

上水や水産業にとって重要な水域である沿岸域は、泥質化も問題となっており、琵琶湖再生に向けて、生態構造と水質のバランスの解析およびそれに基づく水質保全対策をとることが求められています。

